

# 少しでも適切な食事提供のために 取り組んだ活動報告

畠山 朋子<sup>\*</sup>、小嶋 早織、石山 夏紀、久世 春菜

(社会医療法人社団愛心館愛心メモリアル病院食事部栄養課・主任)

## 【目的】

当院では嚥下機能障害に対する理解や認識が低いと感じる現状があり、嚥下機能状態を正しく評価できていないことによる、不要な絶食や誤嚥している可能性が高い状態で食事が提供され続ける状況があった。少しでも適切な食事提供のために取り組んだ活動を報告する。

## 【実施方法】

### ①摂食嚥下障害に関する勉強会を開催

当院では勉強会を行う風習がなく、勉強会を開催すること自体が大きな挑戦であった。

第1回：嚥下の基本・正しい食介助(2019年12月4日)と第2回：とろみ粉の正しい使い方(2020年1月29日)の計2回開催した。

### ②嚥下機能評価について

当院では嚥下機能障害に対してきちんとした検査・評価ができていないことも大きな問題であった。どうするべきか悩んでいる時、地域の勉強会で地域の歯科医師・言語聴覚士の方が訪問診療のかたちで嚥下内視鏡検査をしているというヒントを得ることができた。

2020年2月、当院で実現可能かどうか看護師、理学療法士、社会福祉士等に相談しアドバイスをもらい実現に向けての準備をし、2020年3月医師に検査の提案をしたところ快く許可をもらい訪問診療というかたちで嚥下内視鏡検査を行い嚥下機能障害について評価することができた。

## 【考察・結果】

勉強会では、多くの職員が参加し摂食嚥下障害についての理解を得て興味を持つきっかけになった。

今まで嚥下機能評価に不安を抱えていた医師・看護師等に検査の重要性を感じてもらうことができ、医師・看護師からも検査の実施を検討してくれるようになった。結果的に、以前より嚥下機能障害についての理解が深まり少しずつではあるが不要な絶食の改善、適切な食事の提供を実施することにつながっていると思われる。

まだまだ改善しなければならない点は多々多々あるが、まずは自分が動くこと、そして周りを巻き込みながら、少しずつでも患者様へよりよい医療を提供できる環境にしていきたい。